2013年度

事業報告書

京都市環境保全活動センター
京エコロジーセンター
（指定管理者：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会）

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL.075-641-0911　FAX.075-641-0912
http://www.miyako-eco.jp/

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C004288
Waterless Printing. Naturally.
VEGETABLE OIL INK

発行　公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

発行　2014年11月

京都市環境保全活動センター
京エコロジーセンター
（指定管理者：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会）

編集・発行方針

「持続可能な地域社会」を目指して

京エコロジーセンター（以下、「センター」という。）は、1997年12月に京都市で開催された「地球温暖化防止京都会議」（COP3）の開催を記念して京都市が開設した環境教育、環境保全活動の拠点施設です。センターは現在、指定管理者制度※1の下で事業運営委員会※2を設置して様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会」を目指して、事業運営を行っています。

2011年度より、センター第2期中長期計画※3に沿って事業運営を行っており、本報告書は、センターに来館されたお客様を始め、多くの方々に事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しております。

※1　2013年～2016年の間、財団法人京都市環境事業協会（2014年度から「公益財団法人京都市環境保全活動推進協会」に改称）が指定管理者として指定されています。

※2　京都市から提示された仕様書に基づき、市民、市民団体等、様々な主体による意見を反映する場として、事業運営委員会を設置し、事業の企画、立案、評価を協働で行っています。

※3　2010年度末に事業運営委員会により策定された事業計画で、2015年度を目標年度と定めた計画です。（第1期は2005年～2010年）

関連情報

本報告書に掲載した情報以外にも様々な情報を発信しています。

●京エコロジーセンターWEBサイト
http://www.miyako-eco.jp
ブログも是非ご覧ください　http://www.miyako-eco.jp/blog/

●京エコロジーセンター携帯サイト
http://www.miyako-eco.jp/m/

●京エコロジーセンターFacebook
http://www.facebook.com/miyakoeco

●京エコロジーセンターTwitter
@miyako_eco

京エコロジーセンター 事業報告書 2013年度

対象期間　2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向けた事業、将来の見通し・予定などについて記載しています。

発 行 日　2014年11月

発　　行　京エコロジーセンター（指定管理者：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会）

もくじ

編集・発行方針 …… 1
理事長メッセージ …… 3
事業内容と概況 …… 4

事業報告

PROJECT 1　いろいろな主体が学び、育つステージの提供 …… 5-12
1-1 館内・館外の環境学習プログラム開発 館内案内・団体見学 …… 5
1-2 環境ボランティアの育成・支援 …… 8
1-3 子どもから大人まで環境人づくり …… 10

PROJECT 2　いろいろな主体による、環境保全活動への支援と連携　13-15
2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携 …… 13
2-2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携 …… 15

PROJECT 3　持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流 …… 16-20
3-1 情報発信・広報対策 …… 16
3-2 イベントの企画と実施 …… 19

全体を通じて …… 20
パートナーの声 …… 20
事業運営体制 …… 21
資料集 …… 23

理事長メッセージ

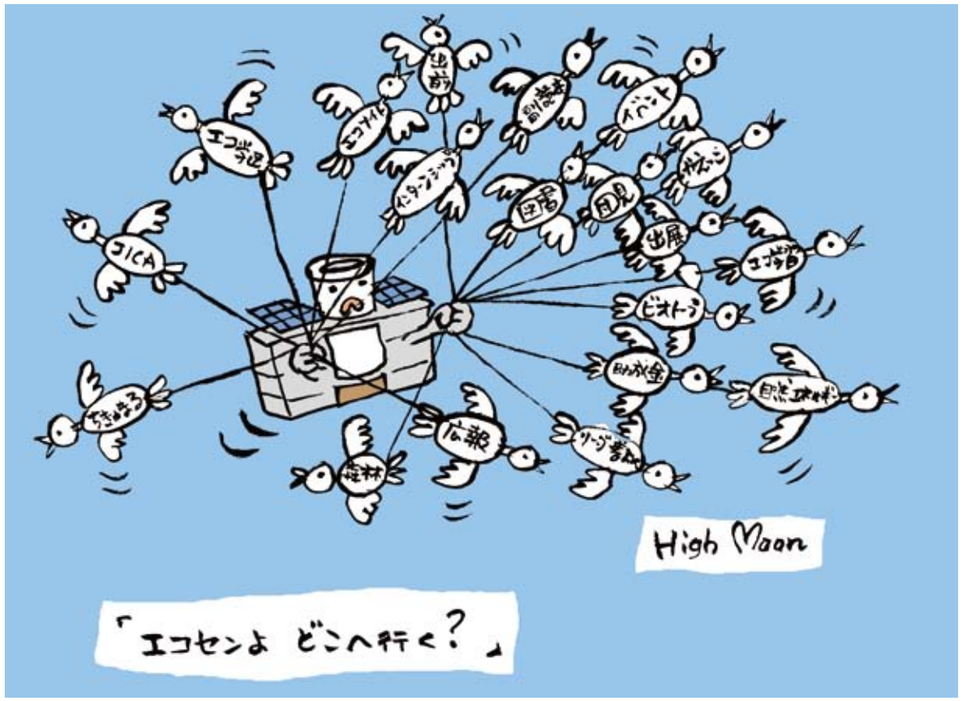
「集中と選択」

理事長　**高月　紘**

京エコロジーセンターの運営主体は2014年4月から公益法人（正式には公益財団法人京都市環境保全活動推進協会）に変わりました。公益法人化に伴い、センターの事業活動を今一度見直す必要が出てきました。これまで、センターの活動は、社会の変化や行政の要望に応じて、そしてスタッフの努力によって、さまざまな取組を展開して来ました。現在進行している2014年度の事業内容を見ても指定管理業務が33事業、受託等業務が4事業と多岐にわたっています。

しかし、ここにきて限られた資金と人員の中でこれまでの事業活動をこれ以上活性化するには困難な状況です。そこで、センターの理事会としては事業運営委委員会の下に総合戦略検討小委員会を設置して、今後センターの進むべき方向性を議論する中で、事業内容を精査して事業活動を見直し、集中すべき事業を選択し、センターの事業活動がより発展的に展開できるよう検討しています。

総合戦略検討小委員会の検討結果は、公益法人としてのセンターの今後の運営に活かし、市民に期待される環境活動支援拠点としての役割を果たしていきたいと思っています。今後とも皆様方のご支援をよろしくお願いします。



事業内容と概況

持続可能な地域社会へ 将来像

「持続可能な地域社会」の実現に向け、多くの国内外の子どもや大人、事業者、学生、NPOが集い、様々な環境学習プログラムが展開され、環境保全活動を担う人が「育つ場」、その活動を「支援・連携する場」、環境保全活動の成果を「発信する場」になっている。

つながる、ひろがる、支え合う、成長するセンターのすがた

プロジェクト1 学び・育ち

いろいろな主体が学び、育つステージの提供（人づくり、場づくり、仕組みづくり）

方向性

- 京エコロジーセンター独自の楽しい環境学習プログラムを専門家、事業者、NPO等のパートナーシップにより開発する。
- 技能や知識を持った専門スタッフや環境ボランティアが、その場に応じて学習プログラムを実施する。
- 京エコロジーセンターや地域で活動する多様な環境ボランティアを育成する。
- 子どもや親、教師、事業者などの「おとな」を対象とした環境学習の機会を設け、繰り返し参加できるようにし、環境意識の向上をはかる。
- 市内の多様な自然環境や環境関連施設を活かして、京都市全域をフィールドとした活動を実施する。

プロジェクト2 支援・連携

いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携（支援・連携する場）

方向性

- 地域で環境保全活動を進める時に、必要な支援を受けたり、連携できるような拠点となる。
- 環境保全活動をしている人たちの交流の場や機能を提供する。
- 環境に関心のある人や環境保全活動をしてみたい人たちが必要な情報を入手できる場や機能を提供する。

プロジェクト3 発信

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流（発信する場）

方向性

- 京都市の市民、事業者、行政、大学等教育研究機関、学生、NPO等のパートナーシップによる協働により、先進的な調査・研究・モデルプロジェクトの支援を行う。
- 京エコロジーセンターの取組や成果を、様々な方法や機会を通じて日本全国や世界に発信し、交流する。
- 世界や全国の環境に関する情報を収集し、市民にわかりやすく発信する。
- 広く市民に開かれた、環境コミュニケーションの場や機能を提供し、環境や京エコロジーセンターに関心のある人を増やす。

実現のためのプロジェクト

1－1 館内・館外の環境学習プログラム開発 館内案内・団体見学

- プログラム開発
- 団体見学、エコ学習
- 環境副読本
- 常設展示
- 企画展示・企画展関連イベント
- ビオトープ改修

1－2 環境ボランティアの育成・支援

- エコメイト養成講座
- 環境ボランティア活動支援
- ステップアップ研修

1－3 子どもから大人まで環境人づくり

- 環境教育リーダースタートアップ講座
- 自然エネルギー学校・京都2013
- 大学コンソーシアム「京都発エコ・デザイン学」
- 京都教育大学総合演習
- インターンシップ・職場体験受け入れ
- かえっこバザール
- エコセンクラブ

2－1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

- 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

2－2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

- 環境保全活動助成

3－1 情報発信・広報対策

- 広報・プロモーション
- 季刊誌「えこせん」の発行
- イベント情報紙「えこいべ」
- 環境図書コーナー
- 京都・環境教育ミーティング
- 出展

3－2 イベントの企画と実施

- イベント

PROJECT 1 いろいろな主体が学び、育つステージの提供

まとめ

京エコロジーセンター事業の根幹を担う環境ボランティアの育成・支援事業が、2015年度の到達目標の実現に向け、着実に進歩しています。特に、ボランティア育成・支援の在り方についてボランティア・職員間でより確実に共有され、日々の活動の中でエコメイト修了後を見据えた活動支援の枠組ができ、機能し始めてきたことは、ボランティアが地域活動を展開していく上で、非常に重要な進歩であったと考えます。これをベースに、プログラムの企画・実施、ツール作成、および展示開発において、職員とボランティアが協働することの意義を双方が理解した上で進めることがこれまで以上にできるようになり、今後、大きな成果となって表れてくると考えます。

プロジェクト 1－1 館内・館外の環境学習プログラム開発 館内案内・団体見学

2015年度 到達目標

幅広い年齢層を対象に館内外において、体験を通した気づきから行動につながる体系だてた環境学習プログラム及びツールが充実している。さらに、参加者のみならずスタッフも学ぶことのできる場づくりが行われている。

2013年度 成果目標

京エコロジーセンターが実施する様々なプログラムの企画・実施、ツール作成、および展示開発において、ボランティアを含めた様々な主体と協働して進める体制が整っている。

結果

- ミニプログラムにおいて、企画段階から実施までをボランティアと協働で進めることができた。しかしながら、関わるボランティアが一部に限られていることから、今後はより多くのボランティアのスキルアップを図る必要がある。
- 展示開発や企画展については、様々な主体と協働して進めるという点では実施できた。しかし他事業のスタッフが関われる体制はつくれていない。

1－1 館内・館外の環境学習プログラム開発／館内案内・団体見学 事業報告

プログラム開発

児童館から依頼を受け、毎月16日の「エコの日」に実施する専用のプログラムを、児童館内で自主的に継続されることを念頭に作成し、実施しました。小学校のPTAからは、環境学習の依頼を受け、出前授業を行いました。また、毎週日曜日にセンターで職員が実施するミニプログラム「ちきゅまるひろば」を継続実施し、センターの定番として定着してきました。さらに、環境ボランティアが「ちきゅまるひろば」を企画・実施することを目指した研修も行いました。

環境ボランティアによる『ちきゅまるひろば』

団体見学、エコ学習

団体見学では、京都市環境政策局循環企画課主催の「エコバスツアー」向けにアレンジしたエコクッキング編が好評でした。エコバスツアー全体では23件の利用がありました。京都市青少年科学センターのセンター学習の一部であるエコ学習では、新たにセンターの展示を活かした「展示学習」がはじまり、多くの児童が来館しました。また、展示学習の開始に伴い、環境ボランティア向けのプログラム研修を実施し、スタッフのスキルアップを図りました。

展示学習

環境副読本

毎年、小学4年生向け、5年生向け、中学生向けの3種類の環境学習に役立つ環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校に配布しています。2013年度は中学生向け環境副読本を、京都市教育委員会、学識者、環境NGO等と協力して全面改訂し、総合的な学習の時間はもちろん、教科内でも活用しやすい内容にしました。また、小学生向けには、学習の補助教材として活用できるインタビュー動画を作成しました。

中学生向けを全面改訂

■環境副読本インタビュー動画ホームページ　http://www.miyako-eco.jp/advice/

常設展示

展示リニューアルに向け、外部の有識者を交えた展示作業部会を立ち上げました。部会では、現在の環境教育の動向から、環境保全活動の拠点施設としての役割、その中での展示の方向性、リニューアルに向けた外部資金の導入等、様々な議論の中から、次年度に向けた論点の洗い出しを行いました。また、環境ボランティア向けにセンターの展示に対する理解を深め、案内を円滑に行えるよう展示の基本情報を集約した「展示案内シート」の作成と活用のための研修を行いました。

作業部会の様子

1 −1 館内・館外の環境学習プログラム開発／館内案内・団体見学

事業報告

企画展示・企画展関連イベント

公募型企画展では、周辺の河川に棲む淡水魚の紹介など、新たに企業や他施設との共同主催により実施しました。また、例年共同で実施している企画展でも、環境カレンダー原画展など新しい企画を盛り込んで開催しました。さらに、2014年2月～3月に開催した『ゴミック「廃貴物」展』は、環境ボランティアのグループ活動である「展示部」が、企画から実施まで一貫して取り組んだものであり、また開催期間中にはギャラリーツアーも実施しました。

展示部の設営作業の様子

ビオトープ改修

センターの屋上ビオトープが、直近の改修から7年が経過し、生物多様性の低下や設備の劣化などが目立ってきたため、改修を行いました。「人と自然の関り方を体験できる学習の場として活用できるよう整備する」を改修コンセプトとして作業を行いました。また、改修に当たり、ボランティアと職員が協働で改修作業や改修後の管理・活用をしていくための基礎知識、生物調査、先進地見学会、ビオトープイベントの運営などの研修も行いました。

ビオトープ改修の様子

コラム

みんなでつくったビオトープ

屋上にあるビオトープができて10年が経過し、生物の多様性も低下してきたため、屋上ビオトープの改修を、職員だけでなく環境ボランティアのエコメイト・京エコサポーターのみなさんと協働で進めました。

まず改修をするにあたり、ボランティア向けに、生き物観察会やビオトープを活用したイベントの実施、ビオトープ観察会、改修に向けたワークショップなどの研修を行いました。

改修作業は、生き物の動きの少ない冬に実施しました。約7年ぶりに大改修ということで多くのボランティアの方々に集まっていただきました。

小川を止水池にするための拡張や新たに設置する田んぼの掘り起こしなど、かなりの重労働でしたが、みんなで作業を行い無事に2月に新屋上ビオトープが完成しました。

今後は、ビオトープを管理・活用していくボランティアグループを組織し、職員とボランティアと協働で屋上を環境学習の場として、盛り上げていきたいと思います。

プロジェクト 1 −2

環境ボランティアの育成・支援

2015年度 到達目標

新規養成講座やエコメイト活動3年間およびその後の京エコサポーターとしての地域活動までを見据えた活動・研修などのサポート体制が整っている。

2013年度 成果目標

ボランティア育成・支援の在り方がボランティア・職員間で共有され、その中でエコメイト修了後を見据えた活動支援を作り始めている。

結果

- エコメイト修了後を見据えた、体系的なボランティアの育成・支援の枠組みが整いつつある。
- ボランティア活動全体の課題や改善点などを、ボランティアと職員が一緒になって解決し合える枠組みが整いつつある。

1 −2 環境ボランティアの育成・支援

事業報告

エコメイト養成講座

本講座は、センターの環境ボランティア「エコメイト」を養成するため、来館者とのコミュニケーションを図るために必要な知識、技術を習得することを目的として実施しています。講座には、ボランティア活動の考え方から、コミュニケーションに関するグループワーク、環境問題の基礎的な知識、環境学習プログラムの基礎・企画・実践等の座学及び実習を含んでいます。2013年度は11月～3月の間に計8回（10日間）開催しました。（応募者18名、受講者16名、エコメイト登録者12名）。

エコメイト養成講座の様子

1 −2 環境ボランティアの育成・支援 事業報告

環境ボランティア活動支援

センターの環境ボランティアは、展示の案内・解説、環境学習プログラムやイベントの企画・実施を通じて環境に配慮したくらしを来館者と一緒に考え、広める役割を担っています。そのような活動をより活発にするために、年間を通じてボランティア同士の交流を深め、活動へのエネルギーを高めるための機会や、それぞれの活動への不安や疑問を解消する機会を設けています。また、毎月のセンターでの活動情報や活動報告を掲載した「エコセン便り」を発行しました。

ボランティア全体会の様子

ステップアップ研修

環境ボランティア「エコメイト」は3年間の任期修了後、地域での環境保全活動を広げる役割を期待されています。このため、3年間の活動がより充実したものとなるよう企画し、月1回程度の頻度で研修を実施しています。2013年度は、体系的に学べるよう、3年間の研修カリキュラムを作成しました。環境問題の知識を得るための研修や、来館者とのコミュニケーションの取り方、環境学習プログラムの企画・実施の方法など、様々なテーマの研修を11回実施しました。

ビオトープ研修の様子

コラム

毎年恒例!先輩エコメイトを送る会

京エコロジーセンターには、センター事業以外でも環境ボランティア同士が企画・実施するイベントがあります。

その一つが、毎年恒例となっている「エコメイト○期生を送る会」です。これは、その年に3年の任期を修了する先輩エコメイトを、後輩のエコメイトが盛大に送り出す会です。

それまでの活動を先頭に立って引っ張ってきた先輩エコメイトへの感謝を込めて、後輩エコメイトの有志が集まって実行委員会をつくり、様々な趣向を凝らした出しものを企画・実施する人気行事となっています。

2013年度「エコメイト11期生を送る会」の様子

修了するエコメイト11期生が一人ずつ挨拶。

会場の装飾やテーブル・椅子のセッティングも入念に企画されています。

「エコメイト11期生を送る会」実行委員会のみなさん。

職員からの体を張った(!?)出しものコーナーもあります。

プロジェクト 1 −3

子どもから大人まで環境人づくり

2015年度 到達目標

環境教育・環境保全活動を行う上で必要な知識・スキルを身につける講座が行われ、講座を修了した人々が京エコロジーセンターをはじめとする様々な主体によるフォローアップ・活動支援を受けて、環境リーダーとしての活動を生み出し、社会に対してアクションを行っている。

2013年度

成果目標

養成講座等の企画運営と並行しながら、社会背景を考慮しつつ参加者およびこれまでの講座修了生の学びが実践につながる取組等今後の活動の支援になるような企画が提供されている。

結果

- 「環境教育リーダースタートアップ講座」や「自然エネルギー学校」などの講座を実施するに当たり、企画作りから京エコロジーセンタースタッフと講座受託者と話し合いの場を設け、社会背景や参加者のニーズに合わせた講座作りに尽力した。
- 参加者のニーズや社会背景を意識した講座内容だったため、講座終了後のアンケートから、参加者の講座への満足度は例年より高かった。

1 −3 子どもから大人まで環境人づくり 事業報告

環境教育リーダースタートアップ講座

これまで「環境教育リーダー養成講座」として行ってきた講座を、多くの人々が環境教育を実践できるようになるために、プログラムの企画、実践の基礎を重視することに目的を改め、講座の名称も「環境教育リーダースタートアップ講座」としました。講座は、全6回とし、基礎、実例(自然体験、まちづくり、ライフスタイルの変革など)、企画、実践までのプロセスを体系立てて学べるよう毎回の講座をデザインし、現場ですぐに活かせる内容としました。

受講者によるプログラム発表の様子

自然エネルギー学校・京都2013

地域や個人等で、自然エネルギー導入を実践する担い手を育てるため全5回の連続講座を実施しました。自然エネルギー、市民共同発電、地域での自然エネルギー事業などの最新動向をそれぞれの専門分野から講師を呼び事例報告を行いました。また、地域で市民共同発電所を実践することを視野にいれ、ノウハウを体系的に学ぶワークショップを毎回行いました。他にも、実際に自然エネルギーを導入した事例の見学も盛り込み、より実践的な講座としました。

ワークショップの様子

大学コンソーシアム「京都発エコ・デザイン学」

（公財）大学コンソーシアム京都による単位互換授業を龍谷大学の協力講座として、センターのコーディネートのもとに行いました。全5回の集中講義「京都発エコ・デザイン学」と題し、身近な環境問題を解決するための方策=「デザイン」を考え、発表を行いました。「デザイン」を考える上での参考として、講座では事業者、NPO、若者、学生、ボランティアによる環境活動の事例発表やディスカッションを行い、学生にとって環境に対する新たな視点が得られるよう取り組みました。

NPOによる事例発表の様子

京都教育大学総合演習

京都教育大学の学生を対象に、5日間の夏期集中講座「環境教育の実践」を企画・実施しました。講座は、学校現場で環境教育の担い手となり得る教員志望の学生を対象に、環境学習プログラムの企画づくりやプログラムを実施する際の効果的なコミュニケーション、場づくり等について、座学、体験をまじえながら、体系的なものになるようデザインしました。最終日には公開演習として、受講生自らが企画した環境学習プログラムをセンターの来館者に向けて実演し、結果について講評を行いました。

プログラム作成の様子

インターンシップ・職場体験受け入れ

インターンシップでは、10名の大学生を受け入れました。夏休み期間を中心に、来館者対応やミニプログラム「ちきゅまるひろば」の実施、「京都発エコデザイン学」の受講生に対して館内案内等の業務に従事しました。また、京都市教育委員会による「生き方探究・チャレンジ体験」の一環として、京都市立洛南中学校、深草中学校、藤森中学校、西京高校付属中学校の4校から12名の職場体験を受け入れ、ブログ更新や展示の作成・修復、イベント準備などの実務を行いました。

インターンシップ生による「ちきゅまるひろば」の様子

かえっこバザール

今年度は新たに、機械や電子部品に詳しいボランティアスタッフによるおもちゃの修理コーナーの常設化や、かえっこバザールの内容と関連させた展示室見学ツアーの開催など展示と連動させて実施しました。期間や方法を改め、年間6回（全11日間）開催したことにより、合計879人の参加者がありました。また昨年度に引き続き、ボランティアスタッフがセンター外で自主的に実施しているかえっこバザールへの支援（実施備品の貸出、実施に関するアドバイス）を行いました。

展示室見学ツアーの様子

エコセンクラブ

センター屋上の田んぼや畑を活用し、小学生とその家族を対象に、お米や野菜の栽培、収穫、エコクッキング、生ごみの堆肥化などの活動を通して「食の循環」を学ぶ活動を全21回行いました。1年間継続して活動することで、体験したことを日常の買い物や料理などで実践している参加者が生まれているほか、ボランティアスタッフとして関わる京エコサポーターがプログラムの実践や参加者との関わり方について学ぶ場としても機能しています。参加登録数は子ども29人、大人26人でした。

京エコサポーターによる田植え指導の様子

コラム

かえっこのひろがり

全国各地で行われているかえっこバザールを、京エコロジーセンターでも開催を始めてから3年になりました。運営スタッフも経験を積んだため、じっくりとお客さんとのやりとりを楽しめるようになりました。

新しい企画もでき、エコメイトが「エコセン見学ツアー」を開催して、お客さんをかえっこ会場から連れ出してくれています。

またかえっこファンのリピーターも増え、“案内役”となって一緒に楽しい会場を作ってくれています。夏休み中に一週間連続で開催した時には、エコセン見学ツアーを自らやり出す子も現れました。

今後かえっこ参加者の子ども達が、「子どもエコメイト」として活躍するような動きにつなげられればと思っています。

PROJECT 2 いろいろな主体による、環境保全活動への支援と連携

まとめ

地域での環境活動を支援する京エコサポーターのグループ活動の枠組が整い、地域で学習会の講師を務めたり、お祭り等の催事にブースを構え、環境について楽しく考える機会等を提供したりと、具体的な形として機能しはじめてきました。また、京エコロジーセンターの指定管理者が別途京都市より受託している「エコ学区サポートセンター業務」や「くらしの匠事業」と、地域支援事業とを連動させることで、京エコサポーターが地域で活躍する可能性が広がることが見えてきました。京エコロジーセンターの地域支援事業を他事業と連動させることで、人、物、事、金をつなげたより成果を生み出しやすい総合的な支援へと発展する可能性が見えてきました。

プロジェクト 2－1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

2015年度 到達目標

自治会をはじめとする地域の様々な主体が、自主的に環境配慮型コミュニティづくりを行うための支援体制が整っている。

2013年度 成果目標

地域環境活動をサポートする担い手（京エコサポーター）のサポート体制を整備し、その仕組みが運用されている。

結果

- 地域でプログラムを実施する環境ボランティアの人材確保・育成、及び事業実施に必要な枠組みは、概ね整ってきている。
- 地域が取り組みやすいメニューとして、既存の”学習会”形式のプログラムのほかに、”ブース出展”形式のプログラムが実施できるようになってきている。
- エコ学区サポートセンターとの情報共有を行いながら、互いに補完しながら事業を行えるようになりつつある。

2－1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携 事業報告

地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

2013年度は、新たな地域とのつながりも生まれ、伏見区地域女性連合会環境部会の委員を対象にした通年学習会（全5回）をはじめ、1回完結型の学習会（計3回）、学区単位で開催されるお祭りへのブース出展（計5回）を実施しました。プログラムの企画から準備、実施、ふりかえり、プログラム改善までを京エコサポーターとともに行い、これらの経験が次の事業実施に繋がるよう取り組みました。また、担当メンバーで意見を出し合い、地域からのニーズに合わせたプログラムを提供するため、学習会、ブース出展それぞれの活動を担う京エコサポーターのグループ体制を整えました。

伏見区地域女性連合会学習会の様子

コラム

地域で活躍する京エコサポーター

地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携事業では、地域の方々からの要望にいつでも応えることができるよう、京エコサポーターが学習プログラムの企画・改善に努めています。

地域で行われるお祭りやイベント時に、参加した子供たちが楽しみながら環境について学べるようなプログラムもあれば、近所お隣同士の小グループで取り組めるような大人向けの学習会プログラムもあります。

これらのプログラムは、全て京エコサポーターの皆さんが開発したものです。そこには、市民ボランティアだからこそ伝えることができる、身近な生活の知恵や工夫が随所にちりばめられています。

2013年度 地域事業におけるプログラム開発の様子

自転車発電装置を作成している様子

自然エネルギーに関する学習会プログラムをつくっている様子

伏見区・板橋学区の「親と子の秋のつどい」で、自転車発電プログラム実施の様子

「伏見区地域女性連合会」の学習会で、自然エネルギーをテーマとする学習会実施の様子

プロジェクト

2－2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

2015年度 到達目標

市内の環境保全活動団体の現状を理解しながら、各主体と京エコロジーセンターが互いに発展するための、支援・連携の方法が構築されている。

2013年度

成果目標

助成金事業の選考・採択を通して、助成制度が充実している。
また、広報力不足の改善を行うことで、助成金制度の認知度を高め、より多くの環境保全活動団体に支援するきっかけをつくる。環境保全活動の活性化（活動資金・担い手・情報・基盤備品等の充実）につながる制度ができている。

結果

- 助成金制度については、採択団体及び選考委員との意見交換を行った上で、検討を積み重ねながら、少しずつ制度の改善を進めることができている。
- 広報不足については、市民しんぶんの活用など広報手段の見直しを行うことで一定の改善が見られたが、今後も効果的な広報手段及び時期について検討していく必要がある。
- 2013年度は、京都市ごみ減量推進会議と協働で、助成金申請スキルアップ講座を開催した。
- 助成制度が活動資金提供の支援のみにとどまってしまわないように、講座や広報活動の支援などを積極的に活用できるよう情報提供を試みた結果、一部活用にもつながり効果がみられた。一方で、団体が期待する支援に京エコロジーセンターだけでは応えることができないものも見られた。このような状況と、採択団体との意見交換及びアンケート結果を踏まえ、京エコロジーセンターにおいて担うことのできる支援と役割を整理する必要がある。

NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

2－2 事業報告

環境保全活動助成

市民による環境保全活動が継続され、ステップアップしていくことを目的に、活動の段階、規模に合わせて3つのタイプ（上限100万円、10万円、5万円）の助成事業を行っています。2013年度は3タイプあわせて10団体の事業を採択しました。事業終了後の活動成果報告会では、各団体が抱える問題等を話し合う機会を設け、ノウハウの交換ができる活動支援の場としても機能させました。

また、採択団体以外も対象とした「助成金申請スキルアップ講座」も開催しました。

活動報告会後の意見交流の様子

PROJECT 3

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流

まとめ

プロモーション・広報力強化とイベント事業との連動に力を入れました。前年度のブランディング（マーケティング、ポジショニング、ターゲットユーザーの設定）を踏まえ、機関誌のリニューアル、戦略的なプレスリリースの実施、WEBを活用したより拡散力の強い広報、館外でのプロモーションイベントを行いました。これらにより、館内でのイベントの企画実施と、広報をより効果的に連動させることができるようになりました。これらの一連の取り組みで、センターとしての発信力は格段に向上したと考えています。もちろん、良い企画を立てていることが前提ですが、その企画が、お客様に伝わり、来館につながる安定度は確実に向上しています。

プロジェクト

3－1 情報発信・広報対策

2015年度 到達目標

京エコロジーセンター事業の内容・過程・成果や環境に関する様々な情報を活用しやすい形で国内外に発信し、交流している。

2013年度

成果目標

必要な人に必要な情報を発信できるように、発信したい情報、対象に応じて広報媒体の効果的な活用方法が整理がされている。

結果

- 広報内容とその対象についてのマトリックスを作成し、ターゲットを意識した広報活動を試験的に実施することができた。あわせて、内容に応じたプレスリリースを試験的に実施した。

広報・プロモーション

ソーシャルメディア(Facebook、twitter)を活用した情報発信とあわせてスマートフォンの普及に対応するため、スマートフォン向けWEBサイトの作成を行いました。また、大型イベントを中心としたプレスリリースにも力を入れ、専門家のアドバイスを受けながら効果的な広報・情報発信の方法について検討しました。2013年度の新たな試みとしては、大型商業施設での館外PRイベントを企画・実施し、これまでセンターの存在を知らなかった層へのアプローチを行いました。

大型商業施設での館外PRイベント

季刊誌「えこせん」の発行

2013年度より機関誌「えこせん」を倍増の8ページとし、季刊誌「えこせん」としてリニューアルしました。隔月発行で年6回、各3,000部(外部出展多忙期等、配付数が多い秋季のみ4,000部)を発行しました。また、ターゲットとなる読者層を明確化し、「京のくらしと人とエコ」をコンセプトに、季節ごとに親子で取り組める活動の紹介や、センターの魅力を伝える誌面づくりを行いました。その結果、好評を得て、毎号在庫がほとんど残らない状況になっています。

2013年度に発行したえこせん

イベント情報紙「えこいべ」

主に親子を対象としたイベントを広報するため、A4半折りの紙媒体「えこいべ」を毎月発行しました。毎月約3,600部印刷し、区役所、図書館、博物館、児童館等で配架しています。また、小学校の夏休み期間に開催するイベントを特集したA3半折りの紙媒体「えこいべ夏休み特大号」を作成し、近隣小学校をはじめ、地下鉄沿線の小学校や幼稚園、保育園に約13,000部、35校に配布しました。掲載したイベントのほとんどが定員に達し、大きな効果がありました。

毎月発行のえこいべと夏の特大号

環境図書コーナー

2013年度は貸出冊数を2冊から5冊に増やし、2,536冊(前年度1,458冊増)の貸出がありました。また、利用者カード新規登録者数は196人(前年度30人増)でした。登録者数は1,000人に達し、登録者数1,000〜1,005人目の方には記念品をお渡ししました。増設したビデオブースでは1,363人(前年度710人増)の利用がありました。また、イベント「ふかくさ森の探検隊 〜つくろう森の絵葉書き〜」、「みんなに紹介しよう!エコセン★本の帯コンテスト」を開催し、図書コーナーの利用を促進しました。

エコセン★本の帯コンテスト授賞式の様子

京都・環境教育ミーティング

2014年3月に「第10回京都・環境教育ミーティング」を開催し、実行委員を含めて340名(参加者318名、実行委員22名)の参加がありました。オープニングではESD-J副代表理事の池田満之氏をゲストに迎えてトークセッションを実施したほか、それに続く事例発表(30件)・セッション(8件)では様々なテーマの発表が行われました。また、全体会や展示ブース出展、ティーコーナーなど様々な交流のしかけを通して、多くの参加者が新たな人や団体、取組と出会い、つながる機会を生むことができました。

参加者と実行委員の集合写真

出展

様々な方に、センターの事業等のPRや、環境のメッセージを伝えるため、地域のお祭りや環境イベント等へブース出展をしています。単にノベルティやパンフレットなどを配るだけではなく、スタッフや環境ボランティアがブース来場者と、会話や体験を通じて、環境について一緒に考えられるプログラムを実施しています。2013年度は37件の出展を行い、ブースへの来場者数は6,443名でした。また、子どもから大人まで使えて、センターのPRにもつながる新しいノベルティについて検討し、クリアファイル等を作成しました。

出展の様子

コラム
出会い・つながり・ひびきあう

2013年度の京都・環境教育ミーティングでは、ユネスコ無形文化遺産にも登録された和食文化に関する発表や、スローフード、フードマイレージ、農業など食を取り巻くテーマの発表が多くみられ、食への関心の高さがうかがえました。また保養キャンプや放射能汚染など福島第一原発事故を受けての発表、さらに幼児教育や学校現場での取組など若い世代への環境教育の事例などが発表されました。

ほかにもブース展示やティーコーナー、最後の全体会では、事例発表を聞くだけでなく、参加者同士が交流する様子が数多くみられ、「交流の場」としての成果がみられました。

プロジェクト

3−2 イベントの企画と実施

2015年度 到達目標

環境問題に無関心な人々が関心を持つ、多様な切り口のイベントをパートナーシップで実施している。そこから、京エコロジーセンターの他事業に参加・参画する人々が現れている。

2013年度

成果目標

市民の興味・関心に合わせたイベントを実施し、引きつづき参加者(初参加者・リピーター)が増加している。またイベントで知ったことを家庭で実践する人がいる。

結果

- 市民の興味・関心に合わせたイベント(中規模型イベント、お料理教室等)を重点的に実施し、2013年度は7,738名の方にご参加いただくことができた。
- 定常イベント参加者アンケートを改善し、設問「イベント参加後に、ご家庭で実践したことや、意識するようになったことはありましたか?」では、「できるかぎりゴミが出ないように料理をするようになりました。」「地球温暖化についての絵本を借りて読みました。」等、イベントで知ったことを家庭で実践する人がいることが読み取れる結果となった。

3−2 イベントの企画と実施 事業報告

イベント

環境問題の現状を知り、暮らしの中で実践するきっかけとなるイベントの企画・実施を行っています。映画会・クッキング・工作教室など、毎月開催するイベントや、年に数回開催する大イベント(1000名規模)に加え、2013年度は気軽に参加しやすい中規模(200名規模)のイベントを重点的に開催しました。主に親子・大人を対象とし、参加者が楽しく学べるイベントを開催しています。また、来館者の意見を反映したイベントを企画するためのアンケートの改善も行いました。

夏休みイベント『木のふでばこ作り』

全体を通じて

2010年に策定した、京エコロジーセンター第2期中長期計画では「「環境教育の拠点施設として」「環境保全活動の支援・連携拠点として」「環境ボランティアの育成・支援の展開」という3つの重点化事業を包括推進します。」としています。この点に関し、特に1−1、1−2、2−1、3−1各プロジェクトの輻輳が顕著です。1−1におけるプログラム開発事業では、出前プログラムの要請が増加、1−2におけるボランティア活動支援事業、2−1における地域支援事業では、京エコサポーターによる地域出展活動が軌道に乗ろうとしています。3−1における外部出展事業(センターPR)では、様々なセクターからの出展依頼が継続してありますが、中には京エコサポーターの地域活動の起点になる可能性を秘めたものもあります。このことから、館外での取組に対するセンターの関わり方を統合していくことで、より効果的に3つの重点化事業が成果を挙げられる可能性が見えてきました。さらに、持続可能な地域社会を築くための人を増やし、つなげていくために、成すべきことは「自立促進」ではないかと考えます。センターが地域に対して永久的にサポートを続けることは不可能です。理想は、地域での活動がセンターのサポートが無くなってからも、自立的に活動していくこと、さらに継続してサポートできる人(京エコサポーター)を増やすことと考えます。京都市の方向性としても、区役所への権限委譲が進み、より地域特性に合った施策の推進が進もうとしています。京都市の施設として、施策の動向を注視しつつ、いかにローカライズさせた柔軟な取り組みを生み出す事が出来るかが、センターの価値を高めることにつながると考えます。

パートナーの声

宝酒造株式会社
環境広報部環境課
課長 中尾 雅幸さん

環境教育においては、市民・行政・事業者・学識者・NPOなど様々な主体が協働して取り組むことの重要性が高まっています。

当社でも様々なステークホルダーと連携した環境教育プログラムの推進に力を入れており、その取り組みの一環として宝酒造「エコの学校」を京エコロジーセンターで実施しています。この「エコの学校」は施設見学やリサイクル体験など楽しみながら親子で学ぶ環境プログラムですが、京エコロジーセンターのスタッフの方には施設見学をしながら京都市のごみ問題の現状などを分かりやすく説明して頂いています。このため参加者は何故ごみを減らさなければならないかを理解したうえでその後の授業を受けるので、ともて有意義な環境教育プログラムになっていると思っています。

このように、京エコロジーセンターは様々な主体が協働して環境教育を実践する拠点として理想的な存在であり、今後ますますその存在感を高めるものと期待しています。

京都教育大学教授
NPO法人子どもと川とまちのフォーラム理事長
土屋 英男さん

エコセンの価値は利用次第　-エコセンとの付き合いと感謝の思い-

京都教育大学ではエコセンを教室とし、『環境教育の実践　ー環境ファシリテーター入門ー』という科目を学生に教えている。エコセン職員の力を借り、と言うより授業者の主体となってもらい、子ども達を対象に環境教育を実践する態度と能力を学生に身に付けさせている。この授業は学生に評判が大変良く満足しているようで、授業後の学生の様子にそれがうかがえる。この日で授業が終了することと学生仲間が解散することの無念さで、涙ぐむ学生も出るほどである。コンソーシアム京都での単位互換制度を利用して、本年度より他大学生にも受講を可能にしたが、初年度にしては多くの学生が希望した。今後も、環境教育を実践的に学生が学ぶ場として、エコセンには大いに期待している。

NPO法人『子どもと川とまちのフォーラム』では、主に小学生を対象に、川遊びを通じて川の自然を知り、水との付き合い方を身に付ける、水環境教育を京都近辺で展開している。年次の活動のまとめは京都・環境ミーティングを利用し、発表させてもらっている。不特定の多くの大人に子ども達の活動を知ってもらう良い機会となっており、主催者のエコセンには大いに感謝している。今後もぜひ、このミーティングを活用させてもらいたい。

事業運営体制

2013年度 1.事業運営体制

事業運営委員会
- 中長期計画進行管理小委員会
- (公募事業)選考小委員会
- 人づくり事業部会・活動支援事業部会・情報発信交流事業部会
  - 展示作業部会

2.パートナーシップで運営される各種委員会の開催

京エコロジーセンターの事業は、パートナーシップで運営される各種委員会により運営されています。

事業運営委員会　3回開催(5月、12月、3月)

事業運営に係る事業方針・計画、長期的な事業並びに利用団体及び事業者等とセンターが連携する事業の企画・立案・評価を行うことを目的に、京エコロジーセンター事業運営委員会を設置しています。

前年度事業の総括、事業の中間進捗状況の確認、次年度計画の策定(各事業部会ごとに議論された内容を運営委員会で最終確認を行う)を行っています。

事業部会　各1回開催(5月)

各プロジェクトの事業の詳細について検討を行っています。事業部会は2013年度をもって廃止し、必要に応じて個別案件ごとに「作業部会」を立ち上げる形に改めることが決まっています。

展示作業部会　4回開催(事前会議1回(10月)、作業部会①(11月)、作業部会②③(2月))

3.事業運営委員会委員

1	伊藤 哲	株式会社堀場製作所 品質改革推進部	12	外池 順一	京都商工会議所 産業振興部 まちづくり推進課
2	伊東 真吾	一般社団法人 市民エネルギー京都	13	中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議
3	乾 亨	立命館大学 産業社会学部	14	西村 俊治	京都市青少年科学センター 主任指導主事
4	井上 和彦	京のアジェンダ21フォーラム	15	西本 雅則	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター
5	大久保 規子	大阪大学 大学院法学研究科	16	原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都
6	北村 憲治	京エコロジーセンター環境ボランティア	17	久山 喜久雄	フィールドソサイエティー
7	枚本 育生	特定非営利活動法人 環境市民	18	牧村 雅史	京都市環境政策局 循環企画課
8	田浦 健朗	特定非営利活動法人 気候ネットワーク	19	松浦 卓也	京都市環境政策局 地球温暖化対策室
9	高月 紘	京エコロジーセンター館長	20	水山 光春	京都教育大学
10	高橋 肇子	京都市地域女性連合会	21	山内 寛	京都市ごみ減量推進会議
11	宮地 伸	株式会社イオンリテール 東近畿カンパニー	22	山本 照美	京エコロジーセンター環境ボランティア

※2014年3月時点

4.事業部会・展示作業部会委員

人づくり部会委員

1	水山 光春	京都教育大学教育学部
2	久山 喜久雄	フィールドソサイエティー
3	北村 彰	株式会社 日展
4	岡野 真之	公益社団法人京都青年会議所
5	堀 孝弘	生駒市役所
6	山田 正人	京都市教育委員会 生涯学習部

※2013年5月時点

活動支援部会委員

1	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク
2	伊藤 哲	株式会社堀場製作所
3	髙橋 肇子	京都市地域女性連合会
4	木原 浩貴	京都府地球温暖化防止活動推進センター
5	長屋 博久	有限会社村田堂
6	森本 純代	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター

※2013年5月時点

情報発信・交流部会委員

1	原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都
2	中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議
3	浅利 美鈴	京都大学環境科学センター
4	豊田 陽介	特定非営利活動法人気候ネットワーク
5	中林 徹郎	京都リビング新聞社

※2013年5月時点

展示作業部会委員

1	高月 紘	京エコロジーセンター館長
2	久山 喜久雄	フィールドソサイエティー
3	北村 彰	展示アドバイザー
4	高田 研	都留文科大学社会学科 環境コミュニティ創造専攻

※2014年3月時点

5.事務局組織図と主な事業(業務)担当

- 館長　高月 紘
- 次長　新喜 富雄
- 事業部長　岩松 洋
- 事業課長　谷内口 友寛
- 事業課職員　12人
- 総務課職員　3人

事業課職員	担当事業
佐崎 由佳	図書コーナー
遠藤 修作	プログラム開発・団体見学、環境人づくり、広報、EEM、出展
松本 みどり	ボランティア、地域活動支援
白戸 渓子	展示、ビオトープ改修、かえっこバザール
島林 あずさ	助成金、イベント、広報
新堀 春輔	プログラム開発・団体見学、副読本、ボランティア、広報、出展
澤田 雄喜	プログラム開発・団体見学、ビオトープ改修、環境人づくり、エコセンクラブ
杉本 真美	助成金、広報、イベント
吉田 隆真	ボランティア、地域活動支援
多胡 亮	展示、エコセンクラブ、展示、ビオトープ改修、出展
竹内 真道	ボランティア、助成金、出展、イベント
西垣 智恵	事業庶務、EEM

総務課職員	担当事業
本多 裕子	広報、図書コーナー
松村 三枝子	経理
川渕 学	労務、施設管理

資料集 1 入館者数編

資料1.経年入館者数

1.入館者数

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
合計	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546
累計	86,085	169,095	243,305	319,120	388,500	466,479	546,212	626,280	695,161	782,595	878,972	973,518
団体見学（上段：総数,下段：団体数）												
合計	8,794	6,796	4,870	7,217	7,050	7,584	8,850	5,911	6,714	6,026	5,468	6,104
	307	234	201	247	191	232	271	213	219	175	194	198
内海外	300	127	128	245	193	683	538	628	1,081	701	444	696
		5	10	16	12	26	26	37	40	27	23	25
エコ学習（上段：総数,下段：学校数）												
合計	19,597	21,027	11,318	11,716	10,964	11,236	10,817	5,598	4,013	5,219	5,504	4,949
	235	256	243	180	182	177	178	85	96	117	111	151
会議室貸出件数（上段：利用者数,下段：貸出部屋数）												
合計	4,047	4,333	4,895	5,306	5,454	7,167	6,707	5,280	5,432	4,987	4,807	4,430
	173	299	409	470	469	589	581	457	459	481	452	430

2. 館外事業参加者数（上段:総参加者数,下段:件数）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
合計	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188	12,936	9,995
	27	37	59	107	110	128	142	118	174	141	130	86

3. 入館者数と館外事業参加者数の合計

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
館内	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546
館外	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188	12,936	9,995
合計	89,742	94,076	89,263	97,261	79,307	94,242	93,161	105,247	84,601	101,622	109,313	104,541

資料2. 月別入館者数一覧

2013年度入館者数		内訳									経年入館者数	
		個人	団体見学				エコ学習		会議室等（詳細別紙）			
			総数		（内、海外）						2012年度	2011年度
			人数	団体数	人数	団体数	人数	校数	利用者数	部屋数等		
4月	6,658	5,714	162	4	153	3	460	11	322	24	9,470	5,162
5月	7,069	5,725	801	16	37	3	211	8	332	23	7,771	6,746
6月	7,071	5,802	454	18	0	0	355	16	460	45	6,836	6,557
7月	9,345	7,885	807	28	20	1	217	12	436	32	9,920	7,506
8月	9,961	9,170	581	18	43	2	0	0	210	24	10,534	8,221
9月	7,111	5,915	512	18	55	4	398	10	286	24	6,528	6,125
10月	7,416	5,723	738	21	17	2	339	11	616	53	9,999	9,409
11月	11,560	9,772	676	23	28	1	869	27	243	23	8,828	9,751
12月	5,219	4,170	219	12	20	3	607	20	223	28	4,934	6,967
1月	5,839	4,696	145	7	0	0	566	17	432	53	5,512	6,293
2月	9,948	8,156	343	17	52	4	927	19	522	71	8,603	7,174
3月	7,349	6,335	666	16	271	2	0	0	348	30	7,442	7,523
計	94,546	79,063	6,104	198	696	25	4,949	151	4,430	430	96,377	87,434

環境啓発イベント（イベント・プログラム）				主催・共催事業 ※1			
館内		館外出展		館内		館外	
参加者	件数	参加者	件数	参加者	件数	参加者	件数
1,035	18	0	0	20	1	3	1
399	16	326	2	87	7	57	2
288	13	500	2	89	5	23	1
460	30	253	4	71	5	518	8
1,489	49	671	4	103	7	85	2
58	7	1,039	5	111	7	247	6
208	12	1,219	4	43	6	227	4
4,486	25	1,244	8	79	9	1,771	13
187	14	607	4	89	6	115	4
294	10	0	0	48	5	106	2
3,332	34	556	3	66	7	23	2
492	14	28	1	42	5	377	4
12,728	242	6,443	37	848	70	3,552	49

※1：他団体との共催事業、講座・研修等の事業、館外イベント等

資料集 2 ボランティア活動編

京エコロジーセンターでは環境ボランティア「エコメイト」が活躍しています。お客様への展示解説、環境学習プログラムやイベントの企画・実施を通じて、環境に配慮した暮らしを広める活動をしています。また、エコメイトの任期は最長3年で、エコメイトを修了すると、エコメイト修了生のネットワーク組織「京エコサポーター」に登録することが出来ます。

●人数変化

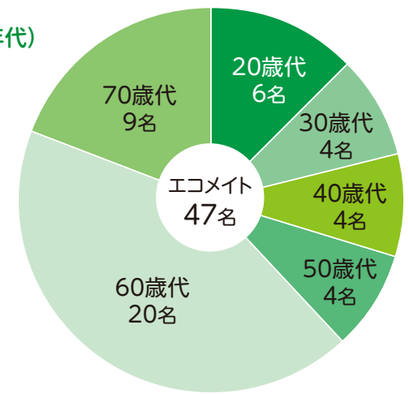
年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	
エコメイト登録者数	1～2期	1～3期	1～4期	3～5期	4～6期	5～7期	6～8期	7～9期	8～10期	9～11期	10～12期	11～13期	
	85名	104名	108名	85名	81名	83名	82名	72名	61名	55名	51名	47名	
エコメイト修了者数	——	——	1～2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	合計
			49名	30名	24名	26名	26名	23名	21名	14名	21名	17名	246名
京エコサポーター登録者数	——	——	——	1～2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	
				31名	22名	24名	23名	16名	15名	17名	12名	16名	

●2013年度エコメイト、環境ボランティア全体の内訳

エコメイト（性別）

男	女
24名	23名

エコメイト（年代）



環境ボランティア（エコメイト／京エコサポーター）

エコメイト	京エコサポーター
47名	107名

図書コーナー利用状況

2013年度	図書貸出			図書カード登録者		ビデオ・DVD					
	貸出冊数	2013年度累計貸出冊	累計貸出冊数	新規登録	登録者累計	保有数	利用者				貸出数
							総数	幼児・小学生	中・高	大人	
4月	233	233	7,422	25	950	477	188	161	9	18	102
5月	219	452	7,641	16	966	478	108	79	7	22	69
6月	209	661	7,850	11	977	478	114	89	13	12	59
7月	340	1,001	8,190	31	1,008	518	165	118	21	26	121
8月	344	1,345	8,534	41	1,049	518	343	270	31	42	193
9月	200	1,545	8,734	17	1,066	518	282	225	6	51	169
10月	124	1,669	8,858	7	1,073	518	158	112	16	30	87
11月	165	1,834	9,023	6	1,079	518	193	147	15	31	111
12月	107	1,941	9,130	4	1,083	518	233	178	27	28	130
1月	156	2,097	9,286	10	1,093	518	146	99	14	33	90
2月	223	2,320	9,509	16	1,109	518	203	162	9	32	101
3月	216	2,536	9,725	12	1,121	518	232	155	44	33	131
合計	2,536	——	——	196	——	——	——	1,795	212	358	1,363

電力量

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電力使用量(kWh)	21,083	9,677	15,634	25,909	35,394	35,403	19,513	10,809	33,101	38,361	41,376	34,144	299,321
太陽光発電使用量(kWh)	2,353	2,787	2,205	2,419	2,435	1,911	1,359	1,115	940	1,105	1,266	1,796	21,691
関西電力(kWh)	18,730	6,890	13,429	23,490	32,959	33,492	18,154	9,694	32,161	37,256	40,110	32,348	279,983
太陽光発電量(kWh)	2,371	2,905	2,278	2,428	2,439	1,911	1,362	1,129	940	1,105	1,266	1,797	21,931
売電量(kWh)	18	118	73	9	4	0	3	14	0	0	0	1	240
使用量(kWh)	2,353	2,787	2,205	2,419	2,435	1,911	1,359	1,115	940	1,105	1,266	1,796	21,691

水道使用量

	2月14日～4月10日	4月11日～6月12日	6月13日～8月12日	8月13日～10月10日	10月11日～12月11日	12月12日～2月13日
水道使用量(㎥)	44	131	117	137	77	172
使用量累計(㎥)	44	175	292	429	506	678

	1月22日～3月22日	3月23日～5月22日	5月23日～7月22日	7月23日～9月24日	9月25日～11月22日	11月23日～1月22日
雨水使用量(㎥)	179	171	198	253	261	168
使用量累計(㎥)	179	350	548	801	1,062	1,230

京エコロジーセンターの歩み(概要)

西暦	平成	事項
1994	6	京都市一般廃棄物処理基本構想策定　→　ごみ問題の学習拠点施設の必要性を位置づけ
1995	7	国連気候変動枠組条約第1回締約国会議(COP1　ベルリン)
1996	8	新京都市環境管理計画策定　→　COP記念センター構想
1997	9	国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3　161カ国参加)　→　京都議定書を採択
1998	10	環境学習・エコロジーセンター(仮称)基本構想策定懇話会を設置
1999	11	環境学習・エコロジーセンター基本計画を策定
2000	12	建設工事着工
		環境学習・エコロジーセンター(仮称)事業検討委員会・企画委員会を設置 →市民・各種団体・NPO・事業者・教育関係者・行政で構成　(現在:事業運営委員会)
2001	13	環境ボランティア養成を開始(9月)
2002	14	京エコロジーセンター開館　(4月21日)
2005	17	京都議定書発効(2月16日)
		京エコロジーセンター中長期計画(第1期)を策定(3月31日)
		京都市地球温暖化対策条例施行(4月1日)
2006	18	指定管理者による運営・管理(第1期)　〔指定管理者:財団法人京都市環境事業協会〕
2009	21	指定管理者による運営・管理(第2期)　〔指定管理者:財団法人京都市環境事業協会〕
2011	23	第2期中長期計画策定(3月)　→　2015年度事業プロジェクト到達点を明記
		改正京都市地球温暖化対策条例施行(4月1日)　→ 温室効果ガス総排出量の削減目標を数値化 2020年 25%削減、2030年 40%削減(1990年比)
2012	24	開館10周年(4月21日)
2013	25	指定管理者による運営・管理(第3期)　[指定管理者:財団法人京都市環境事業協会]